

## MUSIC

サザンカリフォルニアを代表する音楽とカリフォルニアを知り尽くした  
MCジョージ・カックル氏の気ままなサウンド・トーク。

## ちょっと油でベタついたレコード

Talk \_ George Cockle

初めてアメリカでレコードを買った日のことを、今でも覚えている。1967年、小学6年生の時、僕たち家族は日本からテキサス州のダラスに引っ越し、アメリカの文化を肌で感じた。当時のテキサスではまだ大きなレコード店はなく、レコードは近所の薬局、ドラッグストアに行って買うものだった。薬局と言っても、日本とは違う。当時のアメリカの薬局は薬だけでなく、何でも扱うジェネラルストアだった。つまり何でも屋だ。日本でいえば、ドンキホーテや100円ショップみたいな存在だ。店の中は商品が多すぎて歩きにくかったが、日用品は何でもあった。食料品から、キッチン用品、電化製品、洋



服、靴、文房具、お菓子、工具、おもちゃ、そしてレコードまで売っていた。時々、そこが郵便局にもなっていた。あのタワー・レコードも、もともと薬局だった。とはいっても最初はオーナーの息子の小さなセクションしかなく、あまり売り上げがなかったという。しかしオープンから何年か後には、隣にレコード専門店を開いたと言うことだ。

1/3

[Back to Home](#)

# Be Good Boys

大人の遊び場

## MUSIC

サザンカリフォルニアを代表する音楽とカリフォルニアを知り尽くした  
MCジョージ・カックル氏の気ままなサウンド・トーク。

ドラッグストアは、アメリカの田舎ではよく十字路にガソリンスタンドと並ぶようにして建っていた。ほかには何も無い。薬局に入ると長いカウンターがあり、そこはソーダファウンテンと呼ばれるダイナーになっていた。ソーダを出す蛇口があり、コーラやミルクシェイク、アイスクリームを出していた。もちろんハンバーガーとフレンチフライ、そしてアメリカンブラックファストの卵焼きとトーストとハッシュブラウンポテトもね。カウンターにはプラスチックの赤いケチャップとマスタードのボトル。塩、こしょう、そしてステンレスのナプキンホルダー。どの店に入ってもこれだけは同じだった。

そして薬局のワンコーナーではレコードを売っていた。といっても、一つの棚に数百枚ほど並んでいるだけだった。そのほとんどが45RPMのシング

ルドーナツ版だ。スリーブはただの白い紙。写真もないが、レーベルには曲名などの情報がすべて載っていた。不思議なのは同じ曲で2種類のドーナツ版があることだった。例えばA面が『ヘイ・ジュード』、B面が『レボリューション』のレコードもなぜか2種類あって、ザ・ビートルズのバージョンは70セントぐらい。もう一つのバージョンは35セントぐらいだったが、これは無名のコピーバンドが演奏していた。しかし完璧なコピーで、その昔60年代に日本によくいたフィリピンバンドみたいだった。よく聴かないとわからないぐらい似ていたから、コピーバンドのバージョンを買っていた友達もたくさんいたほどだ。ただし、何でも売っているドラッグストアは便利だけど、油っぽいハンバーガーやフレンチフライを作っているせいで、すべての商品がちょっとぬる

2/3

[Back to Home](#)

# Be Good Boys

大人の遊び場

## MUSIC

サザンカリフォルニアを代表する音楽とカリフォルニアを知り尽くした  
MCジョージ・カックルの気ままなサウンド・トーク。



ぬる、ベタベタしている感じがした。  
僕といえば、その薬局にケニー・ロジャース・アンド・ファースト・エディションのデビュー曲、「JUST DROPPED IN TO SEE WHAT CONDITION MY CONDITION WAS IN」を友達と買いに行ったが、当時ヒットしていたので売り切れていた。店ではもちろん視聴できないし、まだロック音楽にあまり詳しくなかった僕は、友達に勧められるままに、なぜかほかの一枚を買った。ブルー・チャアの「サマータイム・ブルーズ」だ。友達は似ている曲だと言っていたが、家に帰ってそのレコードをかけたら驚いた。さわやかなケニー・ロジャースとは大違いで、ブルー・チャアはハードロックだった。

今思うと、なぜ買ってしまったか自分でも説明できないし、その後ブルー・チャアを好きになったかというそうともいえないが、僕の大切な思い出となって、心に残っているのは確かだ。今でもアメリカのロッカーには、そのドーナツ版が眠ってる。でもどうだろう、まだぬるぬるしているだろうか。匂いが染み付いて、触るとちょっと油っぽい感じがするのだろうか。

### ジョージ カックル

1956年鎌倉生まれ。音楽マネージメント、音楽制作会社、音楽プロデューサーなど従事し、数々の音楽体験と抜群の記憶力を生かし各種雑誌の音楽コラムを担当し長きにわたり連載を続けている。現在はインターFM「ジョージ・カックルのレイジー・サンデー」のメインパーソナリティとして活躍中。



3/3

[Back to Home](#)